

街路樹リーフ

(植栽基盤の調査)

レットVol.5.0

- ・都市における「緑」は、木陰の創出など重要なものです。
 - ・福岡県は緑化木の生産では全国有数の産地です。
 - ・近年、緑化木の需要が減少しています
- そこで、県の部局が連携して県内緑化産業を振興しております。
- この取組を広げるために街路樹リーフを作成しております。

街路樹リーフ(特集内容)

- ・vol.1.1 維持管理の容易な樹木の選定
- ・vol.2.0 維持管理を節約できる剪定方法
- ・vol.3.0 植樹帯、植樹柵の配置などに工夫効率的な病害虫対策
- ・vol.4.0 防草対策の事例
樹木の日常点検と診断
- ・vol.5.0 植栽基盤の調査

植栽基盤の調査

公園や植樹帯等に植栽した樹木が「数年たっても大きくなる」「枯れた」など、**植栽の生育が悪い**と感じたことはありませんか？
植栽の生育には良好な**植栽基盤**が必要です。問題がないか調べてみましょう。

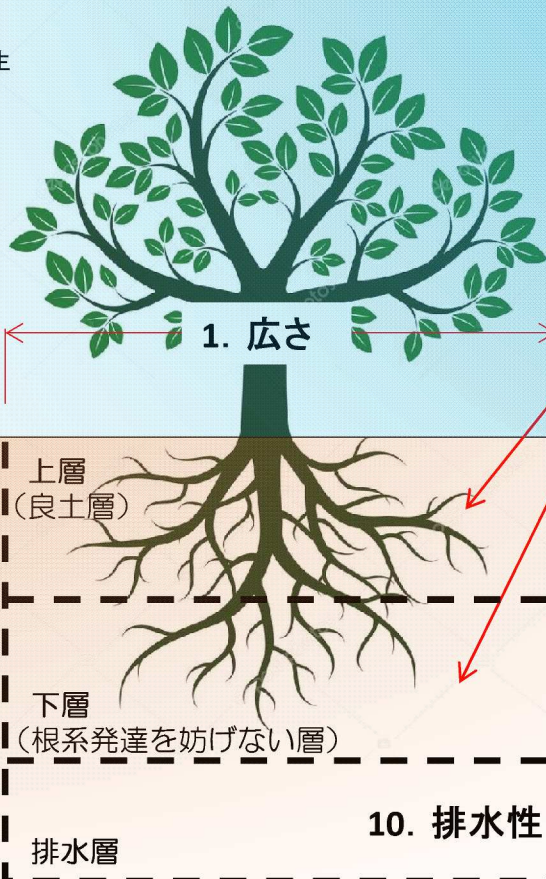
植栽基盤とは

植物の根が支障なく伸長して、水分や養分を吸収することのできる条件を備え、一定程度以上の広がりや厚さがあり、植物を植栽するという目的に供する土層を植栽基盤と言います。

植栽基盤に必要な一般的な要素

(概況調査)

対象地及び周辺を現地踏査し、
①地形、②土壌、③水系、④植生の
確認・観察を行う。



1. 広さ
2. 厚さ
3. 植栽に適した土性
4. 良好な通気性・透水性
5. 適度な保水性
6. 適度な土壌硬度
7. 適度な酸度
8. 適度な養分量
9. 有害物質を含まない
10. 排水性

詳しくは、ホームページで

福岡の緑化木

検索

<http://www.pref.fukuoka.lg.jp>

福岡県

各要素の調査内容と基準値（案）

1. 広さ

一般に樹冠の投影面積と同程度の広さ

2. 厚さ(有効土層厚)

◇有効土層調査

樹種に適した有効土層厚が確保できるかの目視確認

3. 植栽に適した土性

◇土性 砂壤土、壤土が望ましい

調査方法 指触による土性判定

(検土杖調査、試坑断面調査)

砂壤土・・・砂の感じが強く、粘り気もある

粒度分析結果による判定

(ピペット法、比重計法)

4. 良好な通気性・透水性

◇飽和透水係数

土壤の通気性、透水性の確認

調査方法 定水位法、変水位法

10⁻⁴m/s以上

◇減衰速度

土壤の通気性、透水性の確認

調査方法 長谷川式簡易現場透水試験

100mm/hr以上

5. 適度な保水性

◇有効水分保持量

土中に含まれる水分のうち植物が利用可能な水分量の確認

調査方法 加圧板法、吸引法、遠心法

120m³/m³以上

6. 適度な土壤硬度

◇土壤硬度

根の伸長に対する影響の確認

間接的に通気性や透水性の良否の判断の目安

調査方法 長谷川式土壤貫入試験(底面)

1.5~4.0cm/drop以上

山中式土壤硬度計(側面)

11~20mm以下

7. 適度な酸度(pH)

◇土壤酸度(pH)

化学的生育阻害の要因となりうる異常の有無を判断

調査方法 pH(H₂O)

4.5~8.0

8. 適度な養分量

◇土色

調査方法 標準土色帳による土色判定

(検土杖調査、試坑断面調査)

黒~暗褐

◇電気伝導度(EC)

調査方法 ECメーター

0.2~0.5ds/m(砂土)

0.2~1.0ds/m(その他)

※1.0超 : 生育阻害要因となる物質が含まれる可能性が高い

0.1未満 : 基本的に問題は少ないが、肥料分が不足している可能性が高い

◇その他(全窒素、腐食含量など)

9. 有害物質を含まないこと

◇有効土層調査(再掲)

大量の採石やコンクリート廃材が含まれていないことの目視確認

◇電気伝導度(EC)(再掲)

10. 排水性

良好な排水状況を確認

水たまりが残らず、ぬかるまない。

※基準値は植栽基盤整備技術マニュアルを参考としている。

注:実施の際は、植栽する樹種や場所に応じて個別に判断すること。

各要素について調査し、植栽基盤の適否を判定する
適さない場合は基盤整備手法について検討を行う